

福島第二原子力発電所における廃止措置作業の着手について

2021年6月22日

東京電力ホールディングス株式会社
福島第二原子力発電所

当所は、廃止措置に向け準備を進めてまいりましたが、2021年6月16日に福島県、楢葉町および富岡町より、廃止措置計画認可申請に係る事前了解を受領し、この度、準備が整ったことから、6月23日より廃止措置作業に着手しますので、お知らせいたします。

今後、1～4号機原子炉建屋内の設備・機器を対象に、核燃料物質による汚染の除去作業を実施してまいります。

廃止措置の実施にあたっては、安全確保を最優先に、地域の皆さまの安心に沿えるよう、取り組んでまいります。

以 上

○添付資料

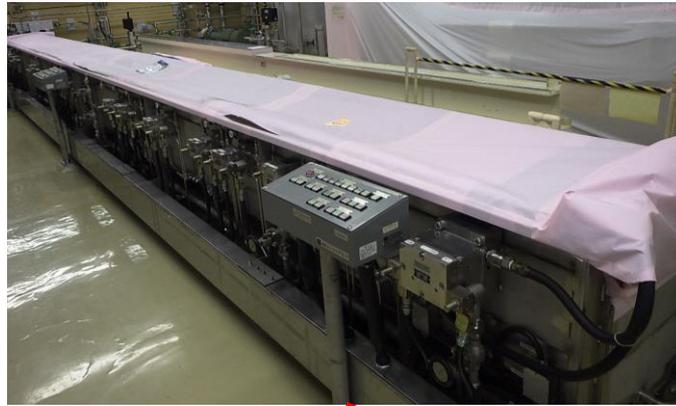
福島第二原子力発電所における核燃料物質による汚染の除去作業の概要

【本件に関するお問い合わせ】
東京電力ホールディングス株式会社
福島第二原子力発電所 広報部 0240-25-4111（代表）

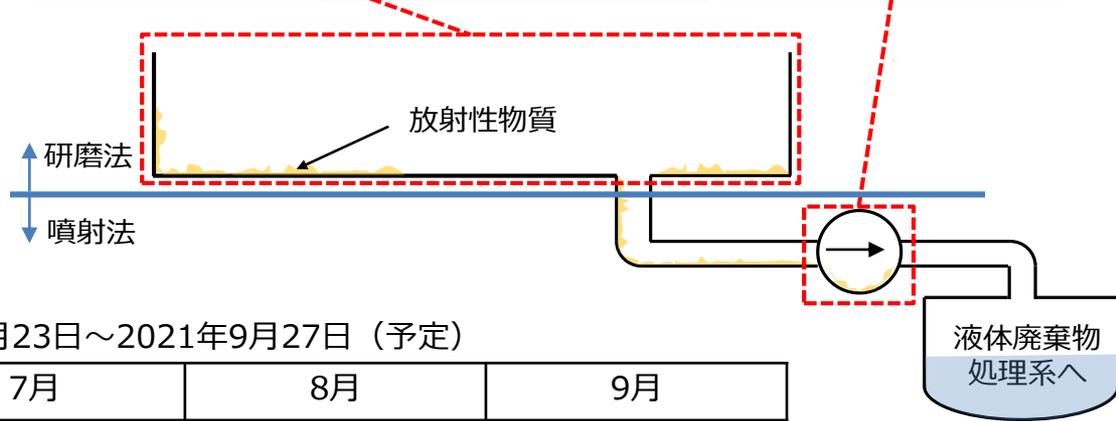
福島第二原子力発電所における核燃料物質による汚染の除去作業の概要

- 解体工事準備期間（第1段階）の着手として、制御棒駆動機構（以下「CRD」という。）補修室※1内の設備・機器を対象に、汚染の除去作業を実施します※2。
- 汚染の除去作業は、放射性物質の漏えいおよび拡散防止対策等の必要な安全確保対策を講じた上で、機械的方法（高圧水を使用する噴射法、ブラシ等による研磨法）により実施します。発生した放射性物質を含む廃液は、液体廃棄物処理系にて適切に処理します。

<CRD半自動分解装置（1号炉）>



<排水ポンプ（1号炉）>



【作業期間およびスケジュール】 2021年6月23日～2021年9月27日（予定）

	6月	7月	8月	9月
1号炉	 			
2号炉				
3号炉				
4号炉				

 : 準備作業

 : 現場作業

※1：制御棒の引抜や挿入をする設備であるCRD（Control Rod Drive）の保守点検作業（分解、洗浄、組立）を行うための室で、場所としては原子炉建屋内になります。

※2：汚染の除去作業は、今後の汚染状況の調査結果を踏まえ、廃止措置期間の全期間に亘って適宜実施してまいります。

廃炉関連製品工場の建設・運営について

*「復興と廃炉の両立に向けた福島の方々へのお約束」実現に向けた取組み状況（2021年5月27日）より一部抜粋

- 廃炉産業集積に向けた取組みを、大きく3ステップに整理
- 2020年度はSTEP1・2に注力し一定の成果。この取組みを継続・強化すると共に2021年度は新たにSTEP3にも踏み出していく（詳細は次頁以降）

基本的な考え方

当面の取組み

STEP1

地元企業の 参入拡大

「地元で出来る仕事は、可能な限り地元で発注する」ことを目指し、地元企業の新規参入・受注拡大に向けた環境を整備する

- 発注見通し説明会の開催
- 商談会の開催
- 相談窓口の運用継続

STEP2

地元企業の ステップアップ サポート

意欲ある地元企業がより高度な業務に進出できるよう、関係機関とも連携しながら、経営力・技術力向上をサポートしていく

- ニーズを踏まえた研修開催
- 受注後の細やかなフォロー
- 県外企業との提携支援

STEP3

地元での 新規産業創出

これまで東京や海外へ発注していた中核技術・製品について、浜通りで開発・製造できるよう、新たな施設や事業体を設立

- パートナー企業と共同で廃炉関連製品工場設立
- 当該工場による地元での雇用、協業、発注

これまで

これから

- これまで東京や海外へ発注していた**廃炉の中核技術・製品**について、将来的には**浜通りで開発・製造**し、**地元経済の中長期的な柱**とすることを目指します。
- その実現に向け、当社が主体となり、**高度技術を持つ県外企業の誘致**を図ると共に、**地元企業と緊密な連携**を図り、地域の雇用創出、人材育成、産業・経済基盤の創造等に貢献してまいります。

【廃炉事業の基本的な流れ】

開発/設計

製造

運用

保管

リサイクル

【主な実施個所】

これまで

東京 / 海外

浜通り（構内）

未実施

将来

原則として、すべて浜通りで一貫して実施

- 浜通りでの一貫実施体制整備に向け、**2020年代に以下の廃炉関連施設の設置を予定**しております。
- これら施設の建設・運用による浜通りへの**経済効果等**は以下の通り見込んでおります。
 【建設時】 総投資額：約5,000億円 工事従事者：平均約300人/日 最盛期約1,000人/日
 【運用時】 浜通りへの経済効果：約200～300億円/年 雇用創出：約300人/年

工程	施設名	施設概要	設置時期	想定立地
開発/設計	技術開発・放射線分析関連施設	● 今後の廃炉に必要な技術開発や、幅広い試料の放射線分析を行う施設	2020年代中盤	
製造	廃炉関連製品工場	● 福島第一、福島第二で必要となる廃炉関連製品を製造する工場 ※詳細次頁	2020年代中盤	福島第一/ 福島第二
運用	デブリ取出し建屋・メンテナンス施設	● デブリ取出用セル等を設置する建屋/デブリ取出装置のメンテナンスを行う施設	2020年代後半	
保管	福島第二使用済燃料乾式貯蔵施設	● 福島第二燃料プールから取り出した使用済燃料を、一時的に保管する施設	2020年代後半	構内もしくは近隣
保管リサイクル	金属溶融・廃棄物関連施設	● 汚染金属を除染・減容化する設備、固体廃棄物を切断・破砕する減容施設、各種廃棄物を保管する貯蔵施設等	2020年代中盤～後半	

- 地元での「製造」について、これまで県外製造とせざるを得なかった高機能製品について、中長期的に浜通りで生産していくため、立地地域での廃炉関連製品工場の建設・運営を目指します。
- 建設・運営にあたっては、当社の考えに共感いただき、かつ原子力関連における実績のあるメーカーと共同事業体設立を基本とします。また、地元の皆さまとも、雇用・協業・発注等のあらゆる面で、ぜひ共に取り組んでまいりたいと考えております。
- 共同事業体のパートナーは公募とし、詳細が固まり次第、当社HPでお知らせします。

